

受賞のことば

日本小児循環器学会では平成27年より公益財団法人宮田心臓病研究振興基金からの寄付を受け、「Miyata Foundation Award 日本小児循環器学会研究奨励賞」を設立しました。2回目となる本年は**阿部二郎先生**（北海道大学）、**吉田祐先生**（慶應義塾大学）が受賞され、7月の学術集会時に表彰式が開催されました。

阿部二郎先生

北海道大学

この度は、栄えある第2回宮田賞をいただき、誠にありがとうございます。

応募テーマである、ドキシソルビシン心筋症に対するナノマシンを用いた新たな心筋幹細胞移植療法の開発は、近年ドキシソルビシン心筋症について多数の報告があり、ミトコンドリア傷害が有力な仮説としてあがってきていること、疫学的にドキシソルビシンによる心血管系障害が癌再発と同程度の予後不良因子となることが判明してきたことへの興味から着想を得ました。これまでミトコンドリア Drug Delivery System (DDS) と心筋前駆細胞を用いた細胞移植療法の研究に従事し、学んできた技術により、有効な治療法のないこの疾患の創薬研究につなげられる確信のもと、仮説をたて研究準備を行って参りました。昨年までの留学先である薬学部の原島秀吉教授と小児科の有賀正教授にご指導頂き、POC獲得を目指した研究に発展させることができました。今回の受賞を励みに、研究をさらに推進・拡大し、北海道大学小児科から世界に向けて、創薬研究が発信できればと思っております。

吉田祐先生

慶應義塾大学

この度、第2回Miyata Foundation Award 日本小児循環器学会研究奨励賞をいただき、大変光栄です。宮田宏章理事長ならびに公益財団法人宮田心臓病研究振興基金の皆様に感謝し、また私の研究をご評価下さいました安河内聡理事長はじめ日本小児循環器学会の先生方に厚く御礼申し上げます。

私の受賞研究テーマは、「多因子遺伝による先天性心疾患発症機構解明へのアプローチ」です。先天性心疾患の成因の多くは多因子遺伝と考えられ、実際の症例では原因を特定することがいまだ容易ではありません。本研究では複雑先天性心疾患の家系内で、疾患保有者に共通する複数の遺伝子変異を検出し、機能解析・モデル動物作製等を用いて、それら遺伝子変異がどのように相互作用して疾患が発症するのかを解明することを目指しています。

小児循環器臨床医としても研究者としても、まだスタートしたばかりですが、今回の受賞を励みに本領域の発展に貢献できるよう研鑽を積んでまいります。



写真左から：宮田宏章様（宮田心臓病研究振興基金理事長）、吉田祐先生、阿部二郎先生、宮田和子様（宮田心臓病研究振興基金理事）、尾崎安幾子様（宮田心臓病研究振興基金事務局長）、安河内聡先生（理事長）

各種学会賞募集について

高尾賞、YIA、Case Report Award、Miyata Foundation Award 日本小児循環器学会研究奨励賞を募集いたします。募集要項は来年1月下旬以降に学会ホームページに掲載される予定ですので、ぜひご応募ください。